

## 大野城市共働事業提案制度 事業評価及び意見集約表

事業名：リハビリ職員による訪問事業！健康寿命延伸プロジェクト

実行委員会名：リハビリ職員による訪問事業実行委員会(NPO法人FSA・すこやか長寿課・介護支援課)

評価項目		評価点	評価	推進委員意見
共働の必要性	市民への効果	19.60 / 25点	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門職等支援者側のネットワークが広がり、ノウハウが更に共有されれば市民への効果も高まると思う。</li> <li>・1年間に2件4件と訪問回数が少ない気がしましたが、団体の体力の問題という事なので仕方ないで終わってよかったのか。</li> <li>・市民や施設でのリハビリが進むことが期待できる。</li> <li>・通所事業の職員への専門的な指導やネットワークづくりによりノウハウが共有されれば効果が上がる。</li> <li>・訪問におけるマンツーマン対応など、細やかで質の高いサービスが提供され市民の満足度、効果も高いと感じた。</li> </ul>
	共働の相乗効果	19.80 / 25点	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相互の専門性が発揮されている。</li> <li>・担当課の評価としても「大きな成果」とありましたが、次につながる事業が見えていることはポイントは高い。</li> </ul>
	共働事業の実施過程	17.60 / 25点	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1～2年目は見えづらかったが、3年目で市側がしっかりと介護保険の制度にしくみをうまく乗つけることができたことは市と共働した意義を感じた。</li> <li>・相互に足りない部分を補い合っている。</li> <li>・共働の中で、パンフ、マニュアルがどのように活用されているのか説明がほしい。</li> <li>・PR等については、動けてなかったとの説明でしたが、そこは努力してほしかった。</li> <li>・コロナの影響もあったが、試行数が少なく効果が見えづらかった。</li> <li>・団体の持つ専門性や市の情報を活かして実施できていた。</li> <li>・市が持つ情報と専門職のスキルを活かして、役割分担も適切にされている。</li> </ul>
事業の実現性	目的・目標の達成度	18.00 / 25点	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・掲げた目標はおおむね達成している。</li> <li>・共働の意義というか市との共働への反映がどうだったのかよくわからないままだった。</li> <li>・市としてのリハビリサービスとして制度化できそうであり評価できる。</li> <li>・試行数が少なく判断は難しいが、おおむね達成されている。</li> <li>・件数的に少ない感もあり、達成度としては判断が難しい。</li> </ul>
	※事業の発展性 (波及効果)	3.20 / 10点		<ul style="list-style-type: none"> <li>・軌道に乗れば波及していく。</li> <li>・波及することを期待する。</li> </ul>
	※事業の再現性 (スキームの確立)	5.80 / 10点		<ul style="list-style-type: none"> <li>・スキームは完全ではないが、構築しつつある。</li> <li>・リハビリサービスとしてのスキームが見えてきた、定着しそうである。</li> <li>・スキームが確立しつつある。</li> <li>・新しいスキームが確立されており、今後にも期待できる。</li> </ul>
総括		84.0 / 120点	A	

※項目は、加点項目